

令和 2 年度（2020 年度）

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書(シラバス)

筑波保育経理専門学校

作成：教務部

1. 幼児保育学科

科目名	保育内容（言葉）
授業の種類	講義
授業時間数	34 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な基本的知識を身につける。乳幼児期の言葉の発達と言語環境の理論的理解を通して、乳幼児期の豊かな心身の育ちを培うための保育者の役割を考察する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「言葉」の意義について 2. 「言葉」のねらいの内容 3. 子どもの言葉と発達 4. 子どもの言葉と環境 5. 保育者の指導・支援（援助） 6. 言葉のかかわりに配慮を必要とする子どもの援助・指導・評価 7. 保育者の言葉 8. 言葉と児童文化財（教材研究） 9. 言葉あそび（模擬保育） 10. 実技の方法（模擬保育と評価） 11. 「言葉」の指導計画 12. まとめ 13. 模擬保育による検討、発表・ディスカッション 	
使用テキスト・参考文献	駒井美智子「保育者をめざす人の保育内容『言葉』」株式会社 みらい
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	保育内容（環境）
授業の種類	講義
授業時間数	34 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>保育内容を構成する「環境」のねらいと内容について理解し、子どもを取り巻く環境について学び、環境と子どもの活動・保育における環境および環境設定について理解する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の基本と領域「環境」について 2. 領域「環境」をさらに深く理解する 3. 幼児の成長発達の特徴を知る 4. 保育者の感性と保育デザイン 5. 保育環境とはどのようなものか理解する 6. 子どもの育ちを支える園環境1（園舎） 7. 子どもの育ちを支える園環境2（園庭） 8. 自然環境を考える1 9. 自然環境を考える2 10. 領域「環境」の内容および対象を理解するため、情報機器及び教材特性の理解や保育者の価値観・生活観が反映された教材研究を行う 11. 模擬保育による検討1 12. 模擬保育による検討2 13. 幼児の科学的態度の育成について 14. 幼児の文字・数量・記号等の援助について 15. 幼児の環境教育について 	
使用テキスト・参考文献	谷田貝公昭「コンパクト版 保育内容シリーズ3 環境」一藝社
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	保育内容（表現）
授業の種類	講義
授業時間数	42 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>乳幼児における表現の意味を理解し、表現の萌芽に気づき、その表現に対し、適切に対応できる応答力を身につける。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容「表現」の歴史的変遷について調べまとめる 2. 領域「表現」のねらいと内容の意味を理解する 3. 表現する身体の獲得のため、バランスのとれた身体とはどのようなものか理解する 4. わらべうた等、あそびと一体となった歌について調べる 5. 子どもの歌を分析することで、特徴と魅力を理解する 6. 季節に着目し、行事やそれにかかわる動植物・自然・いのち等について観察し、考察する 7. 造形に対する感性と表現について理解する 8. 造形に対する感性と表現について、保育現場での指導方法を考察する 9. 音・音楽に対する感性と表現について理解する 10. 音・音楽に対する感性と表現について、保育現場での指導方法を考察する 11. 子どもの豊かな感性と表現を育むために、どのような環境を整えるべきなのか、環境と表現のかかわりについて理解する 12. 表現を育てる保育者の役割と保育教材について考察する 13. 領域「表現」のねらいや内容を参考に、「表現」を育む指導案を立案し実践する 14. 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につける 15. 保育内容「表現」のこれまでと今後の課題について考察する 	
使用テキスト・参考文献	平田智久 他「最新保育講座11 保育内容『表現』」ミネルヴァ書房
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	幼児理解
授業の種類	講義
授業時間数	28 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>幼児一人ひとりの行動や内面の理解、発達を適切に把握できるよう、ビデオ等も利用し保育の基本のあり方、幼児の生活の実際、指導、援助方法、留意する点、保育記録の意味等について学ぶ。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児をとらえる保育者としての基本的な姿勢についての理解を深める 2. 幼児をとらえる視点としての内面の理解、発達理解について学ぶ 3. 保育における「環境」という概念について学び、環境を構成することの重要性を考える 4. 保育における効果的な環境構成と保育実践について考える 5. 子どもや保育にとって「遊び」とはどのような意味を持つのか考える 6. 保育における遊びを通じた総合的指導とは何かについて考える 7. 集団で生活する中での育ちの特徴、集団の中で育つ個人の育ちについて考える 8. 保育集団の作り方や一日の過ごし方など、保育形態について学ぶ 9. 入園当初の時期の発達の特性や発達に応じた援助、配慮について学ぶ 10. 仲間と協力し合い、学びあう時期の発達の特性や発達に応じた援助、配慮について学ぶ 11. 保育における指導計画やその実際、効果的な記録について学ぶ 12. 保育における様々な行事を行う目的と保育の中での活かし方について学ぶ 13. 様々な機関や人と連携しながら子どもの育ちを援助することについて考える 14. 障害や文化の違いなど、違いを受け入れながら共に育つための保育について考える 15. 保育者としての成長や子ども理解、実践の深まりとはどのようなものか考える 	
使用テキスト・参考文献	森上史郎 他「保育方法・指導法の研究（新・保育講座 6）」 ミネルヴァ書房
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	図画工作Ⅲ
授業の種類	講義・演習
授業時間数	90 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>保育内容を展開する上で必要とされる、保育における造形活動の事例を例証・傍証して取り上げ、具体的な考察を行い、造形活動の題材系列や指導・援助に必要な個人の素養と、保育実践に必要な知識や技能を修得する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科目概要を念頭におきながら図画工作Ⅰで取り組んだ実技研修に続きに取り組む 2. 「造形遊び」について興味のある実技研修に取り組む 3. 「造形遊び」の実技研修に対して、記録し保管する 4. 「かく」について興味のある実技研修に取り組む 5. 「かく」の実技研修に対して、絵描き経験に照らし合わせながら幼児の絵を理解する 6. 「つくる」について興味のある実技研修に取り組む 7. 「つくる」の実技研修に対して、素材の特性を活かしながら自由に表現してみる 8. 「総合活動と製作」について興味のある実技研修に取り組む 9. 「総合活動と製作」の実技研修に対して、素材の特性を活かしながら自由に表現してみる 10. 保育実習に向けて <ol style="list-style-type: none"> 11. 模擬保育体験 12. 現場の環境や状況、児童の発達段階を意識・イメージしながら様々な課題に取り組む 13. 上記について、安全に配慮すること、写真や映像も含め記録し保管すること 14. 美術基礎実習 15. 「美術基礎実習」に対して、様々な課題に取り組む 	
使用テキスト・参考文献	花篤實 他「新造形表現 実技編」三晃書房
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	健康・スポーツ
授業の種類	講義
授業時間数	27 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	菊池 泰仁
<p>《科目概要》</p> <p>運動やスポーツは、発育段階によって質・量ともに異なり、基礎体力やスキルを習得するには相応の至適時期があることを理解する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各年齢層におけるスポーツテストの意味するものの概略を理解 2. 各テスト種目の実施方法の理解1（青年期） 3. 各テスト種目の実施方法の理解1（壮年期） 4. 各テスト種目の実施方法の理解1（高齢期） 5. 各種目テストと種々の基礎体力の関係と問題点 6. 体力の総合的な分析（方法論） 7. 体力の総合的な分析（統計処理1） 8. 応用編（統計処理2） 9. 分析結果の考察および相互における分析 10. 基礎体力から見た対象者の理解 11. トレーニング効果の意味するものおよびその重要性 12. 健康観の変遷と「Wellness」の基本的な考え方の理解と真の健康観の展望 13. 既習した各学修内容を考慮した効果的なスポーツ大会の計画1 14. 既習した各学修内容を考慮した効果的なスポーツ大会の計画2 15. 本科目のまとめ 	
使用テキスト・参考文献	大学生の健康・スポーツ科学研究会「大学生の健康・スポーツ科学」道和書院
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	こども家庭福祉
授業の種類	講義
授業時間数	27 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	小林ゆう子
<p>《科目概要》</p> <p>少子高齢社会の進行、家庭や地域における子育て機能の変化など児童や家庭をめぐる環境が著しく変化するなかで、これからの児童・家庭福祉は、子どもを健やかに生み育てられる環境づくりと家庭に対する支援を一層重視した施策の展開が求められている。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会と子ども家庭（子育てをめぐる現状、子どもの成長・発達の現状） 2. 現代社会と子ども家庭（支援の基本的支援） 3. 子ども家庭福祉とは（原理・理念・権利保障） 4. 子ども家庭福祉とは（児童福祉の歴史） 5. 子ども家庭福祉に係る法制度（児童福祉六法） 6. 子ども家庭福祉に係る法制度（子ども家庭福祉サービス体型、サービス利用の方法 など） 7. 子ども家庭にかかわる福祉・保障（母子保健） 8. 障害・難病のある子どもと家庭への支援 9. 児童健全育成 10. 保育実施体制、保育の対象、保育制度の変遷 11. 子育て支援 12. ひとり親家庭の福祉、児童の社会的擁護サービス 13. 非行児童・情緒障害児への支援 14. 児童虐待対策、子ども家庭にかかわる女性福祉 15. 子ども家庭への援助活動 	
使用テキスト・参考文献	社会福祉養成講座編集委員会「社会福祉養成講座15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」中央法規
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	社会福祉
授業の種類	講義
授業時間数	34 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	小林ゆう子
<p>《科目概要》</p> <p>社会福祉に関する基礎知識の体系的な習得を目指す。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の概念と枠組み 2. 社会福祉と関連諸施策 3. 日本における社会福祉の史的展開 4. 社会福祉の援助対象 5. 社会福祉政策と制度体系 6. 社会福祉の行政 7. 社会福祉と民間福祉活動 8. 社会福祉援助の意味（相談援助） 9. 社会福祉援助の方法 10. 関連諸サービスとの連携 11. 社会福祉機関の組織と運営 12. 社会福祉援助の利用と支援 13. 社会福祉援助の評価システム 14. 戦後社会福祉の展開とこれからの社会福祉政策の方向性 15. 21世紀の社会福祉の展望 	
使用テキスト・参考文献	社会福祉養成講座編集委員会「新・社会福祉養成講座4 現代社会と福祉」中央法規
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	音楽基礎 I
授業の種類	講義・実習
授業時間数	18 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	増山桃萌 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※通信制高校にてピアノ指導経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>楽譜を読む、音を奏でる、リズムを打つといった音楽の基礎知識・技術を身につけ、対象者に合わせた音楽活動について考察する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 五線譜の読み方 2. 音符・休符、リズム・拍 3. さまざまな用語と記号 4. 音階と調 5. わらべ歌等の歌の特徴、歴史的背景に触れながら考察する <p>《ピアノ実習》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バイエル 35 番・55 番 2. バイエル 37 番・59 番 3. バイエル 39 番・66 番 4. バイエル 46 番・73 番 5. バイエル 49 番・77 番 6. ピアノ個人レッスン 7. 簡単な伴奏での弾き歌い 8. コードネームによる和音伴奏での弾き歌い 	
使用テキスト・参考文献	石橋裕子 他「新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門」北大路書房 楽譜：「標準バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 実技試験

科目名	音楽基礎Ⅱ
授業の種類	講義・実習
授業時間数	18 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	増山桃萌 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※通信制高校にてピアノ指導経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>「音楽基礎Ⅰ」で習得した音楽理論や楽器演奏等の基礎技能をふまえ、保育や教育の場において音楽を展開する上で必要とされる、保育・教育者としての素養と実践に必要な音楽の知識・技能等を習得する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育・教育等の現場における活動（園行事、学校行事等）について 2. 音楽指導の際に必要なと思われる事項（音楽理論、発達段階、年齢区分、行事等との関連） 3. 音楽活動の必要性 4. 保育・教育等の現場における音楽活動の必要性について考察する <p>《ピアノ実習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「標準バイエルピアノ教則本」より各個人の深度に応じた曲を練習する 	
使用テキスト・参考文献	石橋裕子 他「新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門」北大路書房 楽譜：「標準バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 実技試験

科目名	保育内容（健康）
授業の種類	講義
授業時間数	42 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	村上陽子
<p>《科目概要》</p> <p>幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園・保育要領における健康領域のねらいと内容について理解・習得することで、幼児期の発育・発達を理解し、子どもが自ら考えて行動し問題解決できるように育む保育者をめざす。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の概念に関する理解 2. 領域「健康」のねらいと内容について 3. 心身の発達について1 4. 心身の発達について2 5. 基本的生活習慣の形成について1（必要性） 6. 基本的生活習慣の形成について2（食育） 7. 基本的生活習慣の形成について3（睡眠） 8. 基本的生活習慣の形成について4（排泄） 9. あそびと健康について1（重要性） 10. あそびと健康について2（現状） 11. あそびと健康について3（運動あそび） 12. あそびと健康について4（運動あそびの指導案作成） 13. 健康と安全について1（事故の実態等の把握） 14. 健康と安全について2（安全教育） 15. 授業総括 	
使用テキスト・参考文献	宮下恭子編「保育内容『健康』」大学図書出版
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	ピアノ演習 I
授業の種類	実習
授業時間数	240 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	増山桃萌 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※通信制高校にてピアノ指導経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>音楽基礎 I をふまえたピアノの練習を行う。</p> <p>《ピアノ実習》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バイエル 35 番・55 番 2. バイエル 37 番・59 番 3. バイエル 39 番・66 番 4. バイエル 46 番・73 番 5. バイエル 49 番・77 番 6. ピアノ個人レッスン 7. 簡単な伴奏での弾き歌い 8. コードネームによる和音伴奏での弾き歌い 	
使用テキスト・参考文献	楽譜：「標準バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
評価の基準・方法	実技試験

科目名	保育士・教師論
授業の種類	講義
授業時間数	28 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>保育士・幼稚園教諭の制度的位置づけ、社会的役割・職務内容と必要とされる専門的能力を理解し、保育者にふさわしい資質を自ら養おうとする態度を養う。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを育てる二つのコースと制度としての保育（保育の意味） 2. 社会の変化と保育ニーズ（保育の現状理解） 3. 子ども観、保育観の重要性 1（保育者の人間性） 4. 子ども観、保育観の重要性 2（西欧の思想に学ぶ） 5. 子ども観、保育観の重要性 3（日本の思想に学ぶ） 6. 保育者と制度 1（保育者の制度的地位） 7. 保育者と制度 2（保育士取得要件、幼稚園教諭取得の要件） 8. 幼稚園教諭に求められる能力と職務内容の概要 9. 保育士に求められる能力と職務内容の概要 10. 保育者の役割と専門性（望ましい資質） 11. 保育者に求められる専門性（保護者支援） 12. 期待される保育者 1（成長する保育者） 13. 期待される保育者 2（社会のニーズへ対応） 14. 保育者の職務と倫理 15. 今後の保育制度の同行と保育者の在り方 	
使用テキスト・参考文献	民秋言編「保育者論」建帛社 文部科学省「幼稚園教育要領」 文部科学省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出

科目名	ボランティア論
授業の種類	講義
授業時間数	27 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	小林ゆう子
<p>《科目概要》</p> <p>ボランティアについての基礎理論を学習した上で、現場でのニーズの把握、適切な組織構成などの実践理論を、様々な過去のボランティア活動例を基に学修する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティアとは何か 2. ボランティア活動の歴史1（起源） 3. ボランティア活動の歴史2（日本におけるボランティア活動1） 4. ボランティア活動の歴史3（日本におけるボランティア活動2） 5. NPOについて 6. 高齢者問題とボランティア 7. 障がい者問題とボランティア 8. 児童問題とボランティア 9. 災害とボランティア 10. 環境問題とボランティア 11. 国際問題と国際ボランティア 12. 行政とボランティア 13. 福祉施設職員とボランティア 14. ボランティアと人権の視点 15. ボランティア活動を行う際の留意点 	
使用テキスト・参考文献	巡静一 他「基礎から学ぶボランティア理論と実際」中央法規
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	教育原理
授業の種類	講義
授業時間数	28 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>教育という営みに関心があり、「教育とは何か」ということを考え始めている人に対し、教育(学)の基本的な概念と基礎理論について概括することとおして、教育の意義と目的、教育の歴史及び思想、我が国の学校教育制度、発達段階に応じた指導原理、家庭教育及び地域教育の意義等について学ぶことを目的にする。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の基本原則 1 (人間形成と教育の本質 他) 2. 教育の基本原則 2 (人間教育の可能性 他) 3. 西洋の教育の制度と思想の歴史 1 (古代の教育 他) 4. 西洋の教育の制度と思想の歴史 2 (産業革命と教育 他) 5. 日本の教育の制度と思想の歴史 1 (近世の教育 他) 6. 日本の教育の制度と思想の歴史 2 (大正期の教育運動 他) 7. 発達と教育 1 (発達の意味 他) 8. 発達と教育 2 (子どもの発達段階に即して親や教師が心掛けること 他) 9. 家庭・地域教育 1 (家庭教育の意義と特色 他) 10. 家庭・地域教育 2 (家庭・地域社会の課題 他) 11. 新学習指導要領等の特徴 1 (保育所保育方針の特徴 他) 12. 新学習指導要領等の特徴 2 (小学校等学習指導要領の特徴と課題) 13. 現代教育の課題 1 (現代社会における教育的課題 他) 14. 現代教育の課題 2 (教育環境の変化と課題について 他) 15. 現代教育の課題 3 (教師の課題 他) 	
使用テキスト・参考文献	広岡義之「新しい教育原理」ミネルヴァ書房 文部科学省「幼稚園教育要領」 文部科学省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
評価の基準・方法	小論文(レポート)提出 試験

科目名	こどもの音楽
授業の種類	実習
授業時間数	28 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	増山桃萌 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※通信制高校にてピアノ指導経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>音楽基礎Ⅰ・音楽基礎Ⅱで学んだ楽典および身に付けた演奏技術を更に向上させつつ、保育実習や幼稚園での教育実習に向けて実践的な取り組みを行う。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バイエルまたはブルグミュラーの課題曲を事前に練習しておくことが必要 2. 集団での器楽合奏も行う 3. 課題曲「バイエル 78 番」 4. 課題曲「バイエル 80 番」 5. 課題曲「バイエル 88 番」 6. 課題曲「ブルグミュラー第 2 番『アラベスク』」 7. 課題曲「おべんとう」 8. 課題曲「おかえりのうた」 9. 課題曲「こいのぼり」 10. 課題曲「世界中の子どもたちが」 11. 課題曲「あわてん坊のサンタクロース」 12. 課題曲「とんでったバナナ」 13. 上記課題曲弾き歌いの繰り返し練習 	
使用テキスト・参考文献	石橋裕子 他「新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門」北大路書房 楽譜：「標準バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社 楽譜：「ブルグミュラー/25 の練習曲」全音楽譜出版社
評価の基準・方法	実技試験

科目名	乳児保育 I
授業の種類	講義
授業時間数	27 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	村上陽子
<p>《科目概要》</p> <p>わが国における乳児保育の発展の経緯と現状を確認し、保育所や乳児院の役割を理解する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の子育て環境と乳児保育の実態 2. 乳児保育の発展の経緯と政策の変遷 3. 乳児の身体の発育と運動面の発達理解 (6ヶ月未満児) 4. 乳児の身体の発育と運動面の発達理解 (6ヶ月～1歳3か月児) 5. 乳児の身体の発育と運動面の発達理解 (1歳3か月～2歳未満児) 6. 乳児の身体の発育と運動面の発達理解 (2歳児) 7. 乳児の生活と健康 (感染症など) 8. 乳児の生活と健康 (事故など) 9. 乳児の基本的生活と健康 10. 乳児期の基本的生活 11. 乳児のあそびと対人関係 (言語とあそび) 12. 乳児のあそびと対人関係 (友達関係) 13. 保育計画の立て方 14. 乳児保育における現代的な課題 15. 乳児保育の担当者として求められる役割と資質 	
使用テキスト・参考文献	大阪保育研究所「テキスト乳児保育」フォーラム・A
評価の基準・方法	小論文 (レポート) 提出 試験

科目名	乳児保育Ⅱ
授業の種類	講義
授業時間数	27 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	村上陽子
<p>《科目概要》</p> <p>乳児保育Ⅰで学んだことを基礎として、保育を実践するために必要となる乳児あるいは低年齢児にかかわる保育内容について、実践的な視点から具体的かつ総合的に理解する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の基本となる考え 2. 乳児の生活（日課） 3. 乳児の生活（遊ぶ） 4. 乳児の生活（食事） 5. 乳児の生活（睡眠） 6. 乳児の生活（排泄） 7. 乳児の生活（安全） 8. 乳児の生活（健康） 9. 乳児の生活（保育室） 10. 家庭とのつながり 11. 保育所での環境と生活の仕方 12. 生活を支える保育者の役割 13. 子どもと生活を共にする保育者の役割 14. 日々の生活の中から見えてくる子どもの姿 15. 乳児が生活する場所の問題点 	
使用テキスト・参考文献	阿部和子「乳児保育の基本」萌文書林
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	社会的養護
授業の種類	講義
授業時間数	28 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	小林ゆう子
<p>《科目概要》</p> <p>社会的養護および児童養護に関する考え方や理念、児童養護の歴史、児童養護の制度など、基礎的知識を学修する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会の環境や家庭の機能の変容 2. 現代社会の現状と課題 3. 現代社会における児童および母子・父子家庭が抱える問題 4. 現代社会における社会的養護に意義 5. 社会的養護の歴史的変遷と今日的課題 6. 社会的養護の制度と実施体系 7. 児童の権利擁護 8. 施設養護の理念と施設養護の原理と援助 9. 社会的養護の領域（家庭養護） 10. 社会的養護の領域（施設養護） 11. 施設養護の実態 12. 社会的養護の実践者に求められる専門性と援助技術1（倫理観や社会常識等） 13. 社会的養護の実践者に求められる専門性と援助技術2（ケアワークやソーシャルワーク） 14. 施設運営管理および経営 15. 理想とする社会的養護と支援の内容や質 	
使用テキスト・参考文献	小野澤昇 他「子どもの生活を支える社会的養護」ミネルヴァ書房
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	社会的養護内容
授業の種類	講義
授業時間数	34 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	小林ゆう子
<p>《科目概要》</p> <p>居住型児童福祉施設の創設の意図や目的について学び、施設を利用する子どもへの理解を深め、福祉施設が内在する機能や役割について学ぶ。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的養護内容とは何か 2. 社会的養護内容の基本的視点 3. 社会的養護内容を進める際の基本的方向性 4. 施設養護の現状と課題1（暴力や虐待等） 5. 施設養護の現状と課題2（リービングケア等） 6. 施設における支援の実際1（ニーズの分析、計画作成、支援、評価の流れ） 7. 施設における支援の実際2（利用者のアメニティ、インターンシップ、就労支援等） 8. 児童福祉施設・機関における支援の実際1（関係機関との関係等） 9. 児童福祉施設・機関における支援の実際2（ADLやLADLの獲得等） 10. 社会的養護内容の実践を行うための専門的技術 11. 社会的養護内容の実践を行うための専門的技術の応用 12. 利用者支援とリスク管理 13. 社会的養護内容を受け持つ施設の役割と運営管理のあり方 14. 施設実習に向けて必要とする知識 15. 今後の展望と課題 	
使用テキスト・参考文献	小野澤昇、田中和則 他「子どもの生活を支える社会的養護内容」ミネルヴァ書房
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	家庭支援論
授業の種類	講義
授業時間数	34 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>家族の意味（定義）、基本的機能をおさえた上で、子どもの健全な発達や社会の発展のために果たす家庭の役割、子育て家族を取り巻く社会的状況の厳しさを学修し、家庭支援の必要性を理解する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族援助の対象と役割 2. 子どもと家族 3. 保育士による家族援助 4. 家族援助にかかわる法・制度 5. 子どもと家族を支える機関や人（児童相談所、福祉事務所、家庭児童相談所など） 6. 子どもと家族を支える機関や人（教育関係機関、認定こども園、社会福祉協議会など） 7. 子どもと家族を支援するサービス 8. 保育所・幼稚園における家族援助 9. 在宅子育て家庭への支援1（支援の対象や現場での支援について） 10. 在宅子育て家庭への支援2（情報収集から企画・実施・評価） 11. 要保護児童とその家族への援助 12. 家族への個別援助 13. 家族援助や地域の子育て支援の実際1（電話相談の事例や虐待への援助事例など） 14. 家族援助や地域の子育て支援の実際2（地域子育てセンターのプログラム開発など） 15. 家族援助や地域の子育て支援の実際3（子育て支援の実態など） 	
使用テキスト・参考文献	橋本真紀、山縣文治編「よくわかる家庭支援論」ミネルヴァ書房
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	保育実習事前指導 I
授業の種類	講義・演習
授業時間数	17 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>保育実習（保育所・施設）の意義・目的・内容・方法を理解する。実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「保育実習の学習ガイド」をよく読み、保育実習の意義・目的を理解する 2. 保育所をはじめとする児童福祉施設における保育士の役割を理解する 3. 施設実習を行う施設の機能、社会的役割、一日の流れなどを事前に確認する 4. 保育所実習を行う施設の機能、社会的役割、一日の流れなどを事前に確認する 5. 施設および保育所の実習日誌の書き方や記録する際に必要な留意点について学ぶ 6. 指導案を作成する 7. 保育に必要な技術を練習し、自分のものにする 1 8. 保育に必要な技術を練習し、自分のものにする 2 9. 自分の立てた指導案をもとに実際に模擬保育を行い、実践に必要とされる導入の方法、子どもの姿の予測や言葉かけ、個人差への対応、まとめの言葉かけなどの演習をする 1 10. 自分の立てた指導案をもとに実際に模擬保育を行い、実践に必要とされる導入の方法、子どもの姿の予測や言葉かけ、個人差への対応、まとめの言葉かけなどの演習をする 2 11. 自分の立てた指導案をもとに実際に模擬保育を行い、実践に必要とされる導入の方法、子どもの姿の予測や言葉かけ、個人差への対応、まとめの言葉かけなどの演習をする 3 12. 模擬保育演習を振り返り、子どもの発達の姿や保育技術に関する知識や理解が不足している分野の学修をする 1 13. 模擬保育演習を振り返り、子どもの発達の姿や保育技術に関する知識や理解が不足している分野の学修をする 2 14. これまでの学修を総点検し、いつでも自身の力を十分発揮できるよう準備をしておく 15. 実習直前に向けて、実習施設の情報、提出書類、持参すべき持ち物を確認し、体調管理を完璧にし、実習への準備を万全にする 	
使用テキスト・参考文献	関口はつ江 他「保育実習ハンドブック」大学図書出版 駒井美智子「施設実習ガイドー保育者として成長するための事前事後学習」萌文書林
評価の基準・方法	授業後の確認試験および提出物により

科目名	保育実習事前指導Ⅱ
授業の種類	講義・演習
授業時間数	27 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>保育実習（保育所）の意義・目的・内容・方法を理解する。実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要と学習態度について 2. 実習を通して学ぶ目的と確認について 3. 実習生の心得と実習生の基本的マナーについて 4. 幼稚園と保育園、保育内容の違い 5. 保育者に望まれる資質とは 6. 実習日誌の必要性和作成のポイント 7. 実習日誌の形式と内容・記録の取り方 8. 実践に備えて、実習日誌の手書きに慣れる 9. 指導計画の理解と記述方法（部分実習と責任実習の違い） 10. 部分実習指導案作成のポイント（環境構成図等） 11. 部分実習指導案の作成の実際 12. 部分実習指導案の基、模擬実習の振り返りと課題 13. 責任実習に備えて、模擬保育の振り返りと課題1 14. 責任実習に備えて、模擬保育の振り返りと課題2 15. まとめ 	
使用テキスト・参考文献	関口はつ江 他「保育実習ハンドブック」大学図書出版
評価の基準・方法	授業後の確認試験および提出物により

科目名	幼稚園教育実習指導 I
授業の種類	講義・演習
授業時間数	27 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>実習の目的達成のための基礎知識や心構えを身に付ける。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の意味 2. 子ども理解と援助・支援技術の理解 3. 実習に必要な心構え、マナー、資質の理解 4. 指導案記入に必要な事項について 5. 子どもの活動と教師の援助、支援について 6. 指導案一枚の中の関連について 7. 題材・活動内容等の記入について 8. 援助・支援等の工夫について 9. 模擬保育・授業の実施について 1 10. 模擬保育・授業の実施について 2 11. 模擬保育・授業の実施について 3 12. 子ども理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察について 1 13. 子ども理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察について 2 14. 目指す授業と自己課題の再設定 15. まとめ 	
使用テキスト・参考文献	東京福祉大学「教育実習（初等）の手引き」
評価の基準・方法	授業後の確認試験および提出物により

科目名	幼児教育方法論
授業の種類	講義
授業時間数	34 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>幼児期における保育方法の基礎的な理論と実践について学習する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の基本的理念、子ども観や保育観についての理解を深める 2. 幼児期にふさわしい教育の基本としての「環境」について、その意義と環境構成の方法について具体的に学ぶ 3. 幼児期にふさわしい生活をとらえる視点としての「遊び」について、特性、遊びの中の学び、総合的な指導について学ぶ 4. 幼児期の特徴としての主体性について考える 5. 遊びに含まれる「感じる・気づく・試す」という視点で遊びをとらえたとき、どのような学びの可能性があるか考える 6. 「環境を通しての教育」を展開するために、幼児の興味・関心、自発的な活動を引き出す遊具、材料、場や空間の構成、雰囲気等の具体的な理解を深める 7. 多様な保育形態について調べる 8. 保育のねらいや内容、環境の構成と幼児の活動、保育者の援助などを理解し、一日の指導計画を作成する 9. さまざまな保育記録の事例を通して効果的な記録のあり方を検討する 10. 「メディアの受信者・活用者・発信者」としての乳幼児の能力発達について理解を深める 11. 幼児理解や保護者との連携、幼稚園の運営等への情報機器の効果的な活用の仕方を学ぶ 12. 幼稚園・保育所における子どもの活動の様子と就学後の小学校での様子の映像による理解 13. 多様な連携の方法（面談の方法、便りの事例など）を具体的に理解 14. 身近な地域の資源の活用例の情報交換などを理解する 15. 近年の子育て環境の変化、保育者の役割、今後に向けての保育理念等について 	
使用テキスト・参考文献	小田豊 他「保育の方法・内容を知る 幼児教育の方法」北大路書房
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	ピアノ演習Ⅱ
授業の種類	実習
授業時間数	240 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	増山桃萌 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※通信制高校にてピアノ指導経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>音楽基礎Ⅱをふまえたピアノの練習を行う。</p> <p>《ピアノ実習》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バイエル 35 番・55 番 2. バイエル 37 番・59 番 3. バイエル 39 番・66 番 4. バイエル 46 番・73 番 5. バイエル 49 番・77 番 6. ピアノ個人レッスン 7. 簡単な伴奏での弾き歌い 8. コードネームによる和音伴奏での弾き歌い 	
使用テキスト・参考文献	楽譜：「標準バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
評価の基準・方法	実技試験

科目名	保育実習 I (保育所)
授業の種類	実習
授業時間数	98 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>保育所の生活に参加して、乳幼児への理解を深める。保育所の機能とそこでの保育士の役割について理解し、保育所全体の役割を把握する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割、機能について概要を理解する 2. 保育所の1日の流れを理解する。さらに、実際の保育実践に参加し、乳幼児と行動を共にすることにより、生活状況を把握する 3. 乳幼児の観察や乳幼児とのかかわりを通して、乳幼児の発達を理解する 4. 遊びなど生活の一部を担当し、保育技術を習得する。 5. 保育所における保育計画・指導計画を理解する 6. 保育士としての職業倫理を学ぶ 	
使用テキスト・参考文献	—
評価の基準・方法	規程時間数の実習 実習日誌の提出による評価

科目名	保育実習 I（施設）
授業の種類	実習
授業時間数	98 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>施設の生活に参加して、児童への理解を深める。施設の機能とそこでの保育士の役割について理解し、施設全体の役割を把握する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の役割、機能について概要を理解する 2. 施設の 1 日の流れを理解する。さらに、実際の保育実践に参加し、児童と行動を共にすることにより、生活状況を把握する 3. 児童の観察や児童とのかかわりを通して、児童の発達を理解する 4. 遊びなど生活の一部を担当し、保育技術を習得する。 5. 施設における保育計画・指導計画を理解する 6. 保育士としての職業倫理を学ぶ 	
使用テキスト・参考文献	—
評価の基準・方法	規程時間数の実習 実習日誌の提出による評価

科目名	保育実習Ⅱ（保育所）
授業の種類	実習
授業時間数	94 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>保育活動を実践しながら、保育士として必要な態度・能力・技術を習得する。また、家庭と地域の生活実態に触れて、乳幼児と家庭および地域との関係に対する理解力、判断力を養うと共に、子育て支援に必要とされる能力を養う。さらに、将来あるべき保育士の姿を絶えず自らに問いかけながら、子ども・児童観を養う。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実際の保育活動に参加し、保育技術を習得する 2. 乳幼児の個人差について理解する。特に発達の遅れや生活環境に伴う乳幼児のニーズを理解し、その対応について学ぶ 3. 学生自ら指導計画を立案し、それを基に実践する 4. 地域社会に対する理解を深め、地域社会との連携の方法について具体的に学ぶ 5. 保育士としての職業倫理を具体的に学び、身に付ける 6. 保育士に求められる態度・能力・技術に照らし合わせて、自分自身の課題を明確にする 	
使用テキスト・参考文献	—
評価の基準・方法	規程時間数の実習 実習日誌の提出による評価

科目名	幼稚園教育実習Ⅰ
授業の種類	実習
授業時間数	94 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>幼稚園で行う教育実習であり、実際に幼稚園の現場での保育を観察・経験する。現場での実践力を高める実習となる。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションを通し、実習園の概要や園目標を知る 2. 実習課題をもって日々の実習に臨む 3. 子どもとのかかわり方の基礎を学ぶ 4. 一人ひとりの子どもの育ちの違いを通して、子どもを理解する 5. 教諭としての職務内容や役割、指導技術などを観察し理解する 6. 保育の事前準備、遊具や玩具、保育室の装飾など、物的環境のあり方を学ぶ 7. 保育に参加し、部分的に実際の指導を経験する 8. 学級運営に必要な事務内容を知る 9. 学んだことを記録に残し、「幼稚園教育実習Ⅱ」に活かす 	
使用テキスト・参考文献	—
評価の基準・方法	規程時間数の実習 実習日誌の提出による評価

科目名	幼稚園教育実習Ⅱ
授業の種類	実習
授業時間数	94 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>幼稚園で行う教育実習であり、実際に幼稚園の現場での保育を観察・経験する。現場での実践力を高める実習となる。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目標（テーマ）をもって実習に臨み、子どもと積極的にかかわる 2. 一人ひとりの子どもの育ちの違いを見つめ、子どもの理解を深める 3. 教諭としての職務内容や役割、職員間のチームワークを体験から学ぶ 4. 責任実習において、指導案の立案、保育展開のための事前準備、実際の指導を経験し、事後の課題を見いだす 5. 保育内容や季節によって変化する、遊具や玩具、保育室の装飾など、物的環境のあり方を学ぶ 6. 実習園の地域的環境に目を向け、地域社会との子育ての連携を学ぶ 7. 家庭との連絡の取り方、学級事務の処理方法を知る 8. 園行事等に役割を持ち、積極的に体験する 9. 学んだことを記録に残し、これからの研究に活かす 	
使用テキスト・参考文献	—
評価の基準・方法	規程時間数の実習 実習日誌の提出による評価

科目名	保育実習事後指導 I
授業の種類	講義・演習
授業時間数	14 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>保育実習 I での総括・評価を行い、それをふまえて保育実習 II に向けた学修目標・課題を明確化する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習 I (保育所・施設実習) の目的、意義を再確認する 2. 自己の実習 (保育所実習) を振り返る 3. 部分実習・責任実習の指導案の実践について振り返る 4. 施設概要をふまえ、施設実習の目的、意義を再確認する 5. 自己の実習 (施設実習) を振り返る 6. 自己の保育技術について反省・考察する 7. 上記の内容について、発表できるように準備をする 8. 保育現場に関する視聴覚教材を参考に、保育環境、子どもの人間関係、保育者の援助について学ぶ 9. 子どもの発達に応じた保育のあり方を理解する (0~2 歳児) 10. 子どもの発達に応じた保育のあり方を理解する (3~5 歳児) 11. 保育技術の修得 12. 保育士の専門性について考察する 1 (意味・内容など) 13. 保育士の専門性について考察する 2 (これからの保育者とは) 14. 保育士を取り巻く今後の課題について 15. 実習現場から得られたことについてのまとめ 	
使用テキスト・参考文献	保育実習 I の実習日誌
評価の基準・方法	授業内での発表により

科目名	保育実習事後指導Ⅱ
授業の種類	講義・演習
授業時間数	9 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>保育実習Ⅱでの総括・評価を行い、それをふまえて保育実習Ⅱに向けた学修目標・課題を明確化する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習による総合的な学び1（子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解） 2. 保育実習による総合的な学び2（子どもの保育と保護者支援） 3. 保育実習による総合的な学び3（保育所施設の特徴） 4. 保育実践力の育成1（子どもの状態に応じた適切なかかわり） 5. 保育実践力の育成2（保育の表現技術の応用） 6. 保育実践力の育成3（特別な配慮を必要とする子どもへの保育の実際） 7. 実習施設における指導1（保育士が果たす役割の理解） 8. 実習施設における指導2（利用する子どもの特徴の理解とかかわりの検討） 9. 保育実習からの学びと課題1（子どもの姿・保育者の仕事） 10. 実習施設における指導2（基本的側面・事実の記録・考察の深まりから） 11. 実習施設における指導3（子育て支援・延長保育・一時保育等） 12. 事後指導における実習の総括と評価1（実習の総括と自己評価） 13. 事後指導における実習の総括と評価2（生活に関する技術について） 14. 事後指導における実習の総括と評価3（グループディスカッション） 15. 事後指導における実習の総括と評価4（グループディスカッションによる課題の整理および発表） 	
使用テキスト・参考文献	保育実習Ⅱの実習日誌
評価の基準・方法	授業内での発表により

科目名	幼稚園教育実習指導Ⅱ
授業の種類	講義・演習
授業時間数	18 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>幼稚園教育実習の反省や評価をもとに、これまで修得した専門知識を振り返り、幼児の生活や発達の理解、幼児の発達を促す指導のあり方についての学修を演習を通して一層深めていく。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育実習の感想および課題等をまとめる 2. 実習体験を振り返りながら、「実習の手引き」を参考に、「実習について」「実習生として」「実習に役立つ知識・危機管理」など、幼稚園実習の基礎・基本について要点をまとめる 3. 幼小の連携について、その考え方や検討すべき課題、具体的な連携の例について調べる 4. 幼児教育をめぐる問題について調べ、幼児の生活や発達に及ぼす影響、また幼稚園において取り組むべき課題などについて整理する 5. 「環境を通して行う教育」の意義について復習し、理解を深める 6. 3歳児～5歳児について、年齢別の生活や発達の特徴、指導のポイントなどについてまとめる 7. 実習体験を振り返り、部分実習指導案の作成に関わる自身の課題を明らかにする 8. 幼稚園の一日を想像しながら、実習生の役割や留意点等を調べる 9. 模擬保育指導案の作成に向けて、対象年齢、幼児の姿、季節や時期、幼稚園の規模、紙芝居・歌・手遊びなどの活動、食事の仕方、登園時刻や降園時刻、一日の時間の区切り方などを検討する 10. 模擬保育指導案の作成と教材研究1（教材の作成や準備など） 11. 模擬保育指導案の作成と教材研究2（試作や実践練習） 12. 模擬保育指導案について検討会 13. 模擬保育指導案の改善と教材研究 14. 指導の改善充実に生きる記録の取り方や反省・評価の仕方について調べる 15. 保育者としての専門性をより向上させるために、今後力を入れて取り組みたいことをまとめる 	
使用テキスト・参考文献	東京福祉大学「教育実習（初等）の手引き」
評価の基準・方法	授業後の確認試験および提出物により

科目名	保育表現技術演習
授業の種類	講義・演習
授業時間数	34 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>保育における言語的な表現技術を学修し、保育に関する基礎理論、保育内容、保育技能等、学修した知識・技能をこの保育表現技術の中で活かし、それらの体験を通して、保育における表現技術をスキルアップし、総合的に深めていくことを目的としている。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスの確認、授業展開および期末課題の確認 2. 保育の質と組織活性化について 3. 保育教材の意義と保育活動における教材の必要性について 4. 保育教材の三機能について（教育性・興味性・児童性） 5. 保育教材の支援と援助について 6. 保育教材の必要性について 7. 保育教材の作成企画について 8. 保育教材の作成1（紙芝居・エプロンシアターなどの作成） 9. 保育教材の作成2（絵本・手遊びなどの作成） 10. 保育教材の実践 11. 保育教材の実践の反省と課題1（課題について整理しまとめる） 12. 保育教材の実践の反省と課題2（効果についてまとめる） 13. 保育教材の実践の反省と課題2（まとめ） 14. 幼児の発達段階に即した保育教材とは何か、整理しまとめる 15. 保育者の表現力を育てるにはどうしたらよいか 	
使用テキスト・参考文献	駒井美智子 他「すぐに使える笑顔いっぱい遊びのレシピ」 大学図書出版
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	保育・教職実践演習
授業の種類	講義・演習
授業時間数	52 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>これまで修得した保育の専門知識の振り返りによって保育の専門的基礎力の定着を図ること、および専門的知識技能の実践への応用、課題解決能力を高めることが、この科目の目標である。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実践の特殊性と保育者に必要な専門的スキルとはどのようなことかをまとめる 2. 子どもの最善の利益を考慮した保育について 3. 幼児教育者に求められているもの1（日本の子育て環境の問題点について） 4. 幼児教育者に求められているもの2（日本の保育制度の問題点について） 5. 幼児教育者に求められているもの3（保育環境の問題点を補うための方策） 6. 保育環境の改善1（子どもの安心と安全のための環境） 7. 保育環境の改善2（子どもの活動発展のための環境） 8. 保育環境の改善3（地域との連携協力） 9. 総合的な実践の結びつき1（保育者としての基本的なふるまい方） 10. 総合的な実践の結びつき2（子どもの内面理解と受容） 11. 総合的な実践の結びつき3（子どもの活動発展のためのかかわり） 12. 総合的な実践の結びつき4（保護者とのかかわり） 13. 総合的な実践の結びつき5（保育教材の創意工夫） 14. 保育者としての向上1（常に他に対しての開放的・建設的な態度、向上心を形成する） 15. 保育者としての向上2（保育者としての自己課題、長所短所の整理などを通して、保育者としての自覚を促す） 	
使用テキスト・参考文献	横山文樹、駒井美智子 編著「保育・教職実践演習」大学図書出版 社会福祉法人日本保育協会「保育所保育指針」 文部科学省「幼稚園教育要領 解説」フレーベル館 福本俊監修、駒井美智子 他著「幼稚園教諭・保育士のための実習ガイドブック」大学図書出版
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	専門演習 I
授業の種類	講義・演習
授業時間数	14 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>保育・子育て支援について具体的な事例、課題を取り上げながら演習形式にて、調査・分析、問題点整理の方法を学ぶ。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会と子どもの育ち 2. 幼児期の発達と遊び 3. レポート対策1 「子どもの心を知ることについて述べよ」 4. レポート対策2 「子どもの心を理解するための臨床心理学的な視点と方法について述べよ」 5. レポート対策3 「子どもの心を知る方法としての観察、また、実践改善における記録の重要性について述べよ」 6. レポート対策4 「子どもの心を理解するための基本的な考え『カウンセリングマインド』について述べよ」 7. レポート対策5 「保育におけるカウンセリングマインドの重要性について述べよ」 8. レポート対策6 （考察のまとめ） 9. 実践編1 （保育者による保育の組立について） 10. 実践編2 （保育者による子どもへの対応について） 11. 実践編3 （保育者による保護者への対応および保護者からの質問について） 12. 実践編4 （実習中の指導・援助について） 13. 実践編5 （実習生・初任者が抱える子どもへの対応のわからなさについて） 14. 実践編6 （実習生・初任者における園や保育者とのかかわりについて） 15. 総まとめ（保育における保育臨床相談について） 	
使用テキスト・参考文献	小田豊 他「保育臨床相談」北大路書房
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	専門演習Ⅱ
授業の種類	講義・演習
授業時間数	14 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>保育実習Ⅰを振り返りながら保育実習Ⅱに備えるとともに、子育て支援のあり方の幅広い可能性に重点を置いて「子どもの専門家」としての職業意識を養う。保育・子育て支援の具体的な事例、課題について、グループで課題を設定し、学修を行うことを通じて、問題解決能力を養う。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設の理解 2. 子どもを観察する視点と方法1（年齢別の子どもの発達段階を知る） 3. 子どもを観察する視点と方法2（記録をすることの重要性） 4. 保育実習時における子どもへの対応1（子どもを受け入れ、子どもの気持ちを知る） 5. 保育実習時における子どもへの対応2（葛藤場面での対応を考察する） 6. 保育実習時における保護者への対応1（保護者との出会い、保護者を知ること） 7. 保育実習時における保護者への対応2（実習生としてのふさわしい態度と市勢） 8. 子育て支援について1（家庭、地域、子ども社会の変化と子育て支援の重要性） 9. 子育て支援について2（支援の基本姿勢、具体的な方法） 10. 実習中に学ぶ保育現場での支援1（園の基本的な一日の流れ） 11. 実習中に学ぶ保育現場での支援2（保育をする上での指導計画を作成する意義） 12. 保育環境 13. 児童文化教材 14. 保育者の資質向上のために 15. 保育自習で学ぶことは… 	
使用テキスト・参考文献	関口はつ江 他「保育実習ハンドブック」大学図書出版
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	ピアノ演習Ⅲ
授業の種類	実習
授業時間数	147 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	増山桃萌 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※通信制高校にてピアノ指導経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>幼稚園の現場をふまえたピアノの練習を行う。また、個人ごとに課題曲を設定し、卒業発表会で披露できるよう練習する。</p> <p>《ピアノ実習》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バイエル 35 番・55 番 2. バイエル 37 番・59 番 3. バイエル 39 番・66 番 4. バイエル 46 番・73 番 5. バイエル 49 番・77 番 6. ピアノ個人レッスン 7. 簡単な伴奏での弾き歌い 8. コードネームによる和音伴奏での弾き歌い 	
使用テキスト・参考文献	楽譜：「標準バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
評価の基準・方法	実技試験

2. こども学科

科目名	保育内容（言葉）
授業の種類	講義
授業時間数	34 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な基本的知識を身につける。乳幼児期の言葉の発達と言語環境の理論的理解を通して、乳幼児期の豊かな心身の育ちを培うための保育者の役割を考察する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「言葉」の意義について 2. 「言葉」のねらいの内容 3. 子どもの言葉と発達 4. 子どもの言葉と環境 5. 保育者の指導・支援（援助） 6. 言葉のかかわりに配慮を必要とする子どもの援助・指導・評価 7. 保育者の言葉 8. 言葉と児童文化財（教材研究） 9. 言葉あそび（模擬保育） 10. 実技の方法（模擬保育と評価） 11. 「言葉」の指導計画 12. まとめ 13. 模擬保育による検討、発表・ディスカッション 	
使用テキスト・参考文献	駒井美智子「保育者をめざす人の保育内容『言葉』」株式会社 みらい
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	保育内容（環境）
授業の種類	講義
授業時間数	34 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>保育内容を構成する「環境」のねらいと内容について理解し、子どもを取り巻く環境について学び、環境と子どもの活動・保育における環境および環境設定について理解する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の基本と領域「環境」について 2. 領域「環境」をさらに深く理解する 3. 幼児の成長発達の特徴を知る 4. 保育者の感性と保育デザイン 5. 保育環境とはどのようなものか理解する 6. 子どもの育ちを支える園環境1（園舎） 7. 子どもの育ちを支える園環境2（園庭） 8. 自然環境を考える1 9. 自然環境を考える2 10. 領域「環境」の内容および対象を理解するため、情報機器及び教材特性の理解や保育者の価値観・生活観が反映された教材研究を行う 11. 模擬保育による検討1 12. 模擬保育による検討2 13. 幼児の科学的態度の育成について 14. 幼児の文字・数量・記号等の援助について 15. 幼児の環境教育について 	
使用テキスト・参考文献	谷田貝公昭「コンパクト版 保育内容シリーズ3 環境」一藝社
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	保育内容（表現）
授業の種類	講義
授業時間数	42 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>乳幼児における表現の意味を理解し、表現の萌芽に気づき、その表現に対し、適切に対応できる応答力を身につける。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容「表現」の歴史的変遷について調べまとめる 2. 領域「表現」のねらいと内容の意味を理解する 3. 表現する身体の獲得のため、バランスのとれた身体とはどのようなものか理解する 4. わらべうた等、あそびと一体となった歌について調べる 5. 子どもの歌を分析することで、特徴と魅力を理解する 6. 季節に着目し、行事やそれにかかわる動植物・自然・いのち等について観察し、考察する 7. 造形に対する感性と表現について理解する 8. 造形に対する感性と表現について、保育現場での指導方法を考察する 9. 音・音楽に対する感性と表現について理解する 10. 音・音楽に対する感性と表現について、保育現場での指導方法を考察する 11. 子どもの豊かな感性と表現を育むために、どのような環境を整えるべきなのか、環境と表現のかかわりについて理解する 12. 表現を育てる保育者の役割と保育教材について考察する 13. 領域「表現」のねらいや内容を参考に、「表現」を育む指導案を立案し実践する 14. 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につける 15. 保育内容「表現」のこれまでと今後の課題について考察する 	
使用テキスト・参考文献	平田智久 他「最新保育講座11 保育内容『表現』」ミネルヴァ書房
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	幼児理解
授業の種類	講義
授業時間数	28 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>幼児一人ひとりの行動や内面の理解、発達を適切に把握できるよう、ビデオ等も利用し保育の基本のあり方、幼児の生活の実際、指導、援助方法、留意する点、保育記録の意味等について学ぶ。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児をとらえる保育者としての基本的な姿勢についての理解を深める 2. 幼児をとらえる視点としての内面の理解、発達理解について学ぶ 3. 保育における「環境」という概念について学び、環境を構成することの重要性を考える 4. 保育における効果的な環境構成と保育実践について考える 5. 子どもや保育にとって「遊び」とはどのような意味を持つのか考える 6. 保育における遊びを通じた総合的指導とは何かについて考える 7. 集団で生活する中での育ちの特徴、集団の中で育つ個人の育ちについて考える 8. 保育集団の作り方や一日の過ごし方など、保育形態について学ぶ 9. 入園当初の時期の発達の特性や発達に応じた援助、配慮について学ぶ 10. 仲間と協力し合い、学びあう時期の発達の特性や発達に応じた援助、配慮について学ぶ 11. 保育における指導計画やその実際、効果的な記録について学ぶ 12. 保育における様々な行事を行う目的と保育の中での活かし方について学ぶ 13. 様々な機関や人と連携しながら子どもの育ちを援助することについて考える 14. 障害や文化の違いなど、違いを受け入れながら共に育つための保育について考える 15. 保育者としての成長や子ども理解、実践の深まりとはどのようなものか考える 	
使用テキスト・参考文献	森上史郎 他「保育方法・指導法の研究（新・保育講座 6）」 ミネルヴァ書房
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	図画工作Ⅲ
授業の種類	講義・演習
授業時間数	90 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>保育内容を展開する上で必要とされる、保育における造形活動の事例を例証・傍証して取り上げ、具体的な考察を行い、造形活動の題材系列や指導・援助に必要な個人の素養と、保育実践に必要な知識や技能を修得する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科目概要を念頭におきながら図画工作Ⅰで取り組んだ実技研修に続きに取り組む 2. 「造形遊び」について興味のある実技研修に取り組む 3. 「造形遊び」の実技研修に対して、記録し保管する 4. 「かく」について興味のある実技研修に取り組む 5. 「かく」の実技研修に対して、絵描き経験に照らし合わせながら幼児の絵を理解する 6. 「つくる」について興味のある実技研修に取り組む 7. 「つくる」の実技研修に対して、素材の特性を活かしながら自由に表現してみる 8. 「総合活動と製作」について興味のある実技研修に取り組む 9. 「総合活動と製作」の実技研修に対して、素材の特性を活かしながら自由に表現してみる 10. 保育実習に向けて <ol style="list-style-type: none"> 11. 模擬保育体験 12. 現場の環境や状況、児童の発達段階を意識・イメージしながら様々な課題に取り組む 13. 上記について、安全に配慮すること、写真や映像も含め記録し保管すること 14. 美術基礎実習 15. 「美術基礎実習」に対して、様々な課題に取り組む 	
使用テキスト・参考文献	花篤實 他「新造形表現 実技編」三晃書房
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	健康・スポーツ
授業の種類	講義
授業時間数	27 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	菊池 泰仁
<p>《科目概要》</p> <p>運動やスポーツは、発育段階によって質・量ともに異なり、基礎体力やスキルを習得するには相応の至適時期があることを理解する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各年齢層におけるスポーツテストの意味するものの概略を理解 2. 各テスト種目の実施方法の理解1（青年期） 3. 各テスト種目の実施方法の理解1（壮年期） 4. 各テスト種目の実施方法の理解1（高齢期） 5. 各種目テストと種々の基礎体力の関係と問題点 6. 体力の総合的な分析（方法論） 7. 体力の総合的な分析（統計処理1） 8. 応用編（統計処理2） 9. 分析結果の考察および相互における分析 10. 基礎体力から見た対象者の理解 11. トレーニング効果の意味するものおよびその重要性 12. 健康観の変遷と「Wellness」の基本的な考え方の理解と真の健康観の展望 13. 既習した各学修内容を考慮した効果的なスポーツ大会の計画1 14. 既習した各学修内容を考慮した効果的なスポーツ大会の計画2 15. 本科目のまとめ 	
使用テキスト・参考文献	大学生の健康・スポーツ科学研究会「大学生の健康・スポーツ科学」道和書院
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	こども家庭福祉
授業の種類	講義
授業時間数	27 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	小林ゆう子
<p>《科目概要》</p> <p>少子高齢社会の進行、家庭や地域における子育て機能の変化など児童や家庭をめぐる環境が著しく変化するなかで、これからの児童・家庭福祉は、子どもを健やかに生み育てられる環境づくりと家庭に対する支援を一層重視した施策の展開が求められている。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会と子ども家庭（子育てをめぐる現状、子どもの成長・発達の現状） 2. 現代社会と子ども家庭（支援の基本的支援） 3. 子ども家庭福祉とは（原理・理念・権利保障） 4. 子ども家庭福祉とは（児童福祉の歴史） 5. 子ども家庭福祉に係る法制度（児童福祉六法） 6. 子ども家庭福祉に係る法制度（子ども家庭福祉サービス体型、サービス利用の方法 など） 7. 子ども家庭にかかわる福祉・保障（母子保健） 8. 障害・難病のある子どもと家庭への支援 9. 児童健全育成 10. 保育実施体制、保育の対象、保育制度の変遷 11. 子育て支援 12. ひとり親家庭の福祉、児童の社会的擁護サービス 13. 非行児童・情緒障害児への支援 14. 児童虐待対策、子ども家庭にかかわる女性福祉 15. 子ども家庭への援助活動 	
使用テキスト・参考文献	社会福祉養成講座編集委員会「社会福祉養成講座15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」中央法規
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	社会福祉
授業の種類	講義
授業時間数	34 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	小林ゆう子
<p>《科目概要》</p> <p>社会福祉に関する基礎知識の体系的な習得を目指す。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の概念と枠組み 2. 社会福祉と関連諸施策 3. 日本における社会福祉の史的展開 4. 社会福祉の援助対象 5. 社会福祉政策と制度体系 6. 社会福祉の行政 7. 社会福祉と民間福祉活動 8. 社会福祉援助の意味（相談援助） 9. 社会福祉援助の方法 10. 関連諸サービスとの連携 11. 社会福祉機関の組織と運営 12. 社会福祉援助の利用と支援 13. 社会福祉援助の評価システム 14. 戦後社会福祉の展開とこれからの社会福祉政策の方向性 15. 21世紀の社会福祉の展望 	
使用テキスト・参考文献	社会福祉養成講座編集委員会「新・社会福祉養成講座4 現代社会と福祉」中央法規
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	音楽基礎 I
授業の種類	講義・実習
授業時間数	18 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	増山桃萌 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※通信制高校にてピアノ指導経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>楽譜を読む、音を奏でる、リズムを打つといった音楽の基礎知識・技術を身につけ、対象者に合わせた音楽活動について考察する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 五線譜の読み方 2. 音符・休符、リズム・拍 3. さまざまな用語と記号 4. 音階と調 5. わらべ歌等の歌の特徴、歴史的背景に触れながら考察する <p>《ピアノ実習》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バイエル 35 番・55 番 2. バイエル 37 番・59 番 3. バイエル 39 番・66 番 4. バイエル 46 番・73 番 5. バイエル 49 番・77 番 6. ピアノ個人レッスン 7. 簡単な伴奏での弾き歌い 8. コードネームによる和音伴奏での弾き歌い 	
使用テキスト・参考文献	石橋裕子 他「新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門」北大路書房 楽譜：「標準バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 実技試験

科目名	音楽基礎Ⅱ
授業の種類	講義・実習
授業時間数	18 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	増山桃萌 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※通信制高校にてピアノ指導経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>「音楽基礎Ⅰ」で習得した音楽理論や楽器演奏等の基礎技能をふまえ、保育や教育の場において音楽を展開する上で必要とされる、保育・教育者としての素養と実践に必要な音楽の知識・技能等を習得する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育・教育等の現場における活動（園行事、学校行事等）について 2. 音楽指導の際に必要なと思われる事項（音楽理論、発達段階、年齢区分、行事等との関連） 3. 音楽活動の必要性 4. 保育・教育等の現場における音楽活動の必要性について考察する <p>《ピアノ実習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「標準バイエルピアノ教則本」より各個人の深度に応じた曲を練習する 	
使用テキスト・参考文献	石橋裕子 他「新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門」北大路書房 楽譜：「標準バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 実技試験

科目名	保育内容（健康）
授業の種類	講義
授業時間数	42 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	村上陽子
<p>《科目概要》</p> <p>幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園・保育要領における健康領域のねらいと内容について理解・習得することで、幼児期の発育・発達を理解し、子どもが自ら考えて行動し問題解決できるように育む保育者をめざす。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の概念に関する理解 2. 領域「健康」のねらいと内容について 3. 心身の発達について1 4. 心身の発達について2 5. 基本的生活習慣の形成について1（必要性） 6. 基本的生活習慣の形成について2（食育） 7. 基本的生活習慣の形成について3（睡眠） 8. 基本的生活習慣の形成について4（排泄） 9. あそびと健康について1（重要性） 10. あそびと健康について2（現状） 11. あそびと健康について3（運動あそび） 12. あそびと健康について4（運動あそびの指導案作成） 13. 健康と安全について1（事故の実態等の把握） 14. 健康と安全について2（安全教育） 15. 授業総括 	
使用テキスト・参考文献	宮下恭子編「保育内容『健康』」大学図書出版
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	ピアノ演習 I
授業の種類	実習
授業時間数	240 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	増山桃萌 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※通信制高校にてピアノ指導経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>音楽基礎 I をふまえたピアノの練習を行う。</p> <p>《ピアノ実習》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バイエル 35 番・55 番 2. バイエル 37 番・59 番 3. バイエル 39 番・66 番 4. バイエル 46 番・73 番 5. バイエル 49 番・77 番 6. ピアノ個人レッスン 7. 簡単な伴奏での弾き歌い 8. コードネームによる和音伴奏での弾き歌い 	
使用テキスト・参考文献	楽譜：「標準バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
評価の基準・方法	実技試験

科目名	保育士・教師論
授業の種類	講義
授業時間数	28 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>保育士・幼稚園教諭の制度的位置づけ、社会的役割・職務内容と必要とされる専門的能力を理解し、保育者にふさわしい資質を自ら養おうとする態度を養う。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを育てる二つのコースと制度としての保育（保育の意味） 2. 社会の変化と保育ニーズ（保育の現状理解） 3. 子ども観、保育観の重要性 1（保育者の人間性） 4. 子ども観、保育観の重要性 2（西欧の思想に学ぶ） 5. 子ども観、保育観の重要性 3（日本の思想に学ぶ） 6. 保育者と制度 1（保育者の制度的地位） 7. 保育者と制度 2（保育士取得要件、幼稚園教諭取得の要件） 8. 幼稚園教諭に求められる能力と職務内容の概要 9. 保育士に求められる能力と職務内容の概要 10. 保育者の役割と専門性（望ましい資質） 11. 保育者に求められる専門性（保護者支援） 12. 期待される保育者 1（成長する保育者） 13. 期待される保育者 2（社会のニーズへ対応） 14. 保育者の職務と倫理 15. 今後の保育制度の同行と保育者の在り方 	
使用テキスト・参考文献	民秋言編「保育者論」建帛社 文部科学省「幼稚園教育要領」 文部科学省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出

科目名	ボランティア論
授業の種類	講義
授業時間数	27 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	小林ゆう子
<p>《科目概要》</p> <p>ボランティアについての基礎理論を学習した上で、現場でのニーズの把握、適切な組織構成などの実践理論を、様々な過去のボランティア活動例を基に学修する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティアとは何か 2. ボランティア活動の歴史1（起源） 3. ボランティア活動の歴史2（日本におけるボランティア活動1） 4. ボランティア活動の歴史3（日本におけるボランティア活動2） 5. NPOについて 6. 高齢者問題とボランティア 7. 障がい者問題とボランティア 8. 児童問題とボランティア 9. 災害とボランティア 10. 環境問題とボランティア 11. 国際問題と国際ボランティア 12. 行政とボランティア 13. 福祉施設職員とボランティア 14. ボランティアと人権の視点 15. ボランティア活動を行う際の留意点 	
使用テキスト・参考文献	巡静一 他「基礎から学ぶボランティア理論と実際」中央法規
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	教育原理
授業の種類	講義
授業時間数	28 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>教育という営みに関心があり、「教育とは何か」ということを考え始めている人に対し、教育(学)の基本的な概念と基礎理論について概括することとおして、教育の意義と目的、教育の歴史及び思想、我が国の学校教育制度、発達段階に応じた指導原理、家庭教育及び地域教育の意義等について学ぶことを目的にする。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の基本原則 1 (人間形成と教育の本質 他) 2. 教育の基本原則 2 (人間教育の可能性 他) 3. 西洋の教育の制度と思想の歴史 1 (古代の教育 他) 4. 西洋の教育の制度と思想の歴史 2 (産業革命と教育 他) 5. 日本の教育の制度と思想の歴史 1 (近世の教育 他) 6. 日本の教育の制度と思想の歴史 2 (大正期の教育運動 他) 7. 発達と教育 1 (発達の意味 他) 8. 発達と教育 2 (子どもの発達段階に即して親や教師が心掛けること 他) 9. 家庭・地域教育 1 (家庭教育の意義と特色 他) 10. 家庭・地域教育 2 (家庭・地域社会の課題 他) 11. 新学習指導要領等の特徴 1 (保育所保育方針の特徴 他) 12. 新学習指導要領等の特徴 2 (小学校等学習指導要領の特徴と課題) 13. 現代教育の課題 1 (現代社会における教育的課題 他) 14. 現代教育の課題 2 (教育環境の変化と課題について 他) 15. 現代教育の課題 3 (教師の課題 他) 	
使用テキスト・参考文献	広岡義之「新しい教育原理」ミネルヴァ書房 文部科学省「幼稚園教育要領」 文部科学省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
評価の基準・方法	小論文(レポート)提出 試験

科目名	こどもの音楽
授業の種類	実習
授業時間数	28 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	増山桃萌 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※通信制高校にてピアノ指導経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>音楽基礎Ⅰ・音楽基礎Ⅱで学んだ楽典および身に付けた演奏技術を更に向上させつつ、保育実習や幼稚園での教育実習に向けて実践的な取り組みを行う。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バイエルまたはブルグミュラーの課題曲を事前に練習しておくことが必要 2. 集団での器楽合奏も行う 3. 課題曲「バイエル 78 番」 4. 課題曲「バイエル 80 番」 5. 課題曲「バイエル 88 番」 6. 課題曲「ブルグミュラー第 2 番『アラベスク』」 7. 課題曲「おべんとう」 8. 課題曲「おかえりのうた」 9. 課題曲「こいのぼり」 10. 課題曲「世界中の子どもたちが」 11. 課題曲「あわてん坊のサンタクロース」 12. 課題曲「とんでったバナナ」 13. 上記課題曲弾き歌いの繰り返し練習 	
使用テキスト・参考文献	石橋裕子 他「新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門」北大路書房 楽譜：「標準バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社 楽譜：「ブルグミュラー/25 の練習曲」全音楽譜出版社
評価の基準・方法	実技試験

科目名	乳児保育 I
授業の種類	講義
授業時間数	27 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	村上陽子
<p>《科目概要》</p> <p>わが国における乳児保育の発展の経緯と現状を確認し、保育所や乳児院の役割を理解する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の子育て環境と乳児保育の実態 2. 乳児保育の発展の経緯と政策の変遷 3. 乳児の身体の発育と運動面の発達理解 (6ヶ月未満児) 4. 乳児の身体の発育と運動面の発達理解 (6ヶ月～1歳3か月児) 5. 乳児の身体の発育と運動面の発達理解 (1歳3か月～2歳未満児) 6. 乳児の身体の発育と運動面の発達理解 (2歳児) 7. 乳児の生活と健康 (感染症など) 8. 乳児の生活と健康 (事故など) 9. 乳児の基本的生活と健康 10. 乳児期の基本的生活 11. 乳児のあそびと対人関係 (言語とあそび) 12. 乳児のあそびと対人関係 (友達関係) 13. 保育計画の立て方 14. 乳児保育における現代的な課題 15. 乳児保育の担当者として求められる役割と資質 	
使用テキスト・参考文献	大阪保育研究所「テキスト乳児保育」フォーラム・A
評価の基準・方法	小論文 (レポート) 提出 試験

科目名	乳児保育Ⅱ
授業の種類	講義
授業時間数	27 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	村上陽子
<p>《科目概要》</p> <p>乳児保育Ⅰで学んだことを基礎として、保育を実践するために必要となる乳児あるいは低年齢児にかかわる保育内容について、実践的な視点から具体的かつ総合的に理解する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の基本となる考え 2. 乳児の生活（日課） 3. 乳児の生活（遊ぶ） 4. 乳児の生活（食事） 5. 乳児の生活（睡眠） 6. 乳児の生活（排泄） 7. 乳児の生活（安全） 8. 乳児の生活（健康） 9. 乳児の生活（保育室） 10. 家庭とのつながり 11. 保育所での環境と生活の仕方 12. 生活を支える保育者の役割 13. 子どもと生活を共にする保育者の役割 14. 日々の生活の中から見えてくる子どもの姿 15. 乳児が生活する場所の問題点 	
使用テキスト・参考文献	阿部和子「乳児保育の基本」萌文書林
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	社会的養護
授業の種類	講義
授業時間数	28 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	小林ゆう子
<p>《科目概要》</p> <p>社会的養護および児童養護に関する考え方や理念、児童養護の歴史、児童養護の制度など、基礎的知識を学修する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会の環境や家庭の機能の変容 2. 現代社会の現状と課題 3. 現代社会における児童および母子・父子家庭が抱える問題 4. 現代社会における社会的養護に意義 5. 社会的養護の歴史的変遷と今日的課題 6. 社会的養護の制度と実施体系 7. 児童の権利擁護 8. 施設養護の理念と施設養護の原理と援助 9. 社会的養護の領域（家庭養護） 10. 社会的養護の領域（施設養護） 11. 施設養護の実態 12. 社会的養護の実践者に求められる専門性と援助技術1（倫理観や社会常識等） 13. 社会的養護の実践者に求められる専門性と援助技術2（ケアワークやソーシャルワーク） 14. 施設運営管理および経営 15. 理想とする社会的養護と支援の内容や質 	
使用テキスト・参考文献	小野澤昇 他「子どもの生活を支える社会的養護」ミネルヴァ書房
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	社会的養護内容
授業の種類	講義
授業時間数	34 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	小林ゆう子
<p>《科目概要》</p> <p>居住型児童福祉施設の創設の意図や目的について学び、施設を利用する子どもへの理解を深め、福祉施設が内在する機能や役割について学ぶ。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的養護内容とは何か 2. 社会的養護内容の基本的視点 3. 社会的養護内容を進める際の基本的方向性 4. 施設養護の現状と課題1（暴力や虐待等） 5. 施設養護の現状と課題2（リービングケア等） 6. 施設における支援の実際1（ニーズの分析、計画作成、支援、評価の流れ） 7. 施設における支援の実際2（利用者のアメニティ、インターンシップ、就労支援等） 8. 児童福祉施設・機関における支援の実際1（関係機関との関係等） 9. 児童福祉施設・機関における支援の実際2（ADLやLADLの獲得等） 10. 社会的養護内容の実践を行うための専門的技術 11. 社会的養護内容の実践を行うための専門的技術の応用 12. 利用者支援とリスク管理 13. 社会的養護内容を受け持つ施設の役割と運営管理のあり方 14. 施設実習に向けて必要とする知識 15. 今後の展望と課題 	
使用テキスト・参考文献	小野澤昇、田中和則 他「子どもの生活を支える社会的養護内容」ミネルヴァ書房
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	家庭支援論
授業の種類	講義
授業時間数	34 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>家族の意味（定義）、基本的機能をおさえた上で、子どもの健全な発達や社会の発展のために果たす家庭の役割、子育て家族を取り巻く社会的状況の厳しさを学修し、家庭支援の必要性を理解する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族援助の対象と役割 2. 子どもと家族 3. 保育士による家族援助 4. 家族援助にかかわる法・制度 5. 子どもと家族を支える機関や人（児童相談所、福祉事務所、家庭児童相談所など） 6. 子どもと家族を支える機関や人（教育関係機関、認定こども園、社会福祉協議会など） 7. 子どもと家族を支援するサービス 8. 保育所・幼稚園における家族援助 9. 在宅子育て家庭への支援1（支援の対象や現場での支援について） 10. 在宅子育て家庭への支援2（情報収集から企画・実施・評価） 11. 要保護児童とその家族への援助 12. 家族への個別援助 13. 家族援助や地域の子育て支援の実際1（電話相談の事例や虐待への援助事例など） 14. 家族援助や地域の子育て支援の実際2（地域子育てセンターのプログラム開発など） 15. 家族援助や地域の子育て支援の実際3（子育て支援の実態など） 	
使用テキスト・参考文献	橋本真紀、山縣文治編「よくわかる家庭支援論」ミネルヴァ書房
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	保育実習事前指導 I
授業の種類	講義・演習
授業時間数	17 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>保育実習（保育所・施設）の意義・目的・内容・方法を理解する。実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「保育実習の学習ガイド」をよく読み、保育実習の意義・目的を理解する 2. 保育所をはじめとする児童福祉施設における保育士の役割を理解する 3. 施設実習を行う施設の機能、社会的役割、一日の流れなどを事前に確認する 4. 保育所実習を行う施設の機能、社会的役割、一日の流れなどを事前に確認する 5. 施設および保育所の実習日誌の書き方や記録する際に必要な留意点について学ぶ 6. 指導案を作成する 7. 保育に必要な技術を練習し、自分のものにする 1 8. 保育に必要な技術を練習し、自分のものにする 2 9. 自分の立てた指導案をもとに実際に模擬保育を行い、実践に必要とされる導入の方法、子どもの姿の予測や言葉かけ、個人差への対応、まとめの言葉かけなどの演習をする 1 10. 自分の立てた指導案をもとに実際に模擬保育を行い、実践に必要とされる導入の方法、子どもの姿の予測や言葉かけ、個人差への対応、まとめの言葉かけなどの演習をする 2 11. 自分の立てた指導案をもとに実際に模擬保育を行い、実践に必要とされる導入の方法、子どもの姿の予測や言葉かけ、個人差への対応、まとめの言葉かけなどの演習をする 3 12. 模擬保育演習を振り返り、子どもの発達の姿や保育技術に関する知識や理解が不足している分野の学修をする 1 13. 模擬保育演習を振り返り、子どもの発達の姿や保育技術に関する知識や理解が不足している分野の学修をする 2 14. これまでの学修を総点検し、いつでも自身の力を十分発揮できるよう準備をしておく 15. 実習直前に向けて、実習施設の情報、提出書類、持参すべき持ち物を確認し、体調管理を完璧にし、実習への準備を万全にする 	
使用テキスト・参考文献	関口はつ江 他「保育実習ハンドブック」大学図書出版 駒井美智子「施設実習ガイドー保育者として成長するための事前事後学習」萌文書林
評価の基準・方法	授業後の確認試験および提出物により

科目名	保育実習事前指導Ⅱ
授業の種類	講義・演習
授業時間数	27 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>保育実習（保育所）の意義・目的・内容・方法を理解する。実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要と学習態度について 2. 実習を通して学ぶ目的と確認について 3. 実習生の心得と実習生の基本的マナーについて 4. 幼稚園と保育園、保育内容の違い 5. 保育者に求められる資質とは 6. 実習日誌の必要性和作成のポイント 7. 実習日誌の形式と内容・記録の取り方 8. 実践に備えて、実習日誌の手書きに慣れる 9. 指導計画の理解と記述方法（部分実習と責任実習の違い） 10. 部分実習指導案作成のポイント（環境構成図等） 11. 部分実習指導案の作成の実際 12. 部分実習指導案の基、模擬実習の振り返りと課題 13. 責任実習に備えて、模擬保育の振り返りと課題1 14. 責任実習に備えて、模擬保育の振り返りと課題2 15. まとめ 	
使用テキスト・参考文献	関口はつ江 他「保育実習ハンドブック」大学図書出版
評価の基準・方法	授業後の確認試験および提出物により

科目名	幼稚園教育実習指導 I
授業の種類	講義・演習
授業時間数	27 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>実習の目的達成のための基礎知識や心構えを身に付ける。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の意味 2. 子ども理解と援助・支援技術の理解 3. 実習に必要な心構え、マナー、資質の理解 4. 指導案記入に必要な事項について 5. 子どもの活動と教師の援助、支援について 6. 指導案一枚の中の関連について 7. 題材・活動内容等の記入について 8. 援助・支援等の工夫について 9. 模擬保育・授業の実施について 1 10. 模擬保育・授業の実施について 2 11. 模擬保育・授業の実施について 3 12. 子ども理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察について 1 13. 子ども理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察について 2 14. 目指す授業と自己課題の再設定 15. まとめ 	
使用テキスト・参考文献	東京福祉大学「教育実習（初等）の手引き」
評価の基準・方法	授業後の確認試験および提出物により

科目名	幼児教育方法論
授業の種類	講義
授業時間数	34 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>幼児期における保育方法の基礎的な理論と実践について学習する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の基本的理念、子ども観や保育観についての理解を深める 2. 幼児期にふさわしい教育の基本としての「環境」について、その意義と環境構成の方法について具体的に学ぶ 3. 幼児期にふさわしい生活をとらえる視点としての「遊び」について、特性、遊びの中の学び、総合的な指導について学ぶ 4. 幼児期の特徴としての主体性について考える 5. 遊びに含まれる「感じる・気づく・試す」という視点で遊びをとらえたとき、どのような学びの可能性があるか考える 6. 「環境を通しての教育」を展開するために、幼児の興味・関心、自発的な活動を引き出す遊具、材料、場や空間の構成、雰囲気等の具体的な理解を深める 7. 多様な保育形態について調べる 8. 保育のねらいや内容、環境の構成と幼児の活動、保育者の援助などを理解し、一日の指導計画を作成する 9. さまざまな保育記録の事例を通して効果的な記録のあり方を検討する 10. 「メディアの受信者・活用者・発信者」としての乳幼児の能力発達について理解を深める 11. 幼児理解や保護者との連携、幼稚園の運営等への情報機器の効果的な活用の仕方を学ぶ 12. 幼稚園・保育所における子どもの活動の様子と就学後の小学校での様子の映像による理解 13. 多様な連携の方法（面談の方法、便りの事例など）を具体的に理解 14. 身近な地域の資源の活用例の情報交換などを理解する 15. 近年の子育て環境の変化、保育者の役割、今後に向けての保育理念等について 	
使用テキスト・参考文献	小田豊 他「保育の方法・内容を知る 幼児教育の方法」北大路書房
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	ピアノ演習Ⅱ
授業の種類	実習
授業時間数	240 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	増山桃萌 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※通信制高校にてピアノ指導経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>音楽基礎Ⅱをふまえたピアノの練習を行う。</p> <p>《ピアノ実習》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バイエル 35 番・55 番 2. バイエル 37 番・59 番 3. バイエル 39 番・66 番 4. バイエル 46 番・73 番 5. バイエル 49 番・77 番 6. ピアノ個人レッスン 7. 簡単な伴奏での弾き歌い 8. コードネームによる和音伴奏での弾き歌い 	
使用テキスト・参考文献	楽譜：「標準バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
評価の基準・方法	実技試験

科目名	保育実習 I (保育所)
授業の種類	実習
授業時間数	98 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>保育所の生活に参加して、乳幼児への理解を深める。保育所の機能とそこでの保育士の役割について理解し、保育所全体の役割を把握する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割、機能について概要を理解する 2. 保育所の1日の流れを理解する。さらに、実際の保育実践に参加し、乳幼児と行動を共にすることにより、生活状況を把握する 3. 乳幼児の観察や乳幼児とのかかわりを通して、乳幼児の発達を理解する 4. 遊びなど生活の一部を担当し、保育技術を習得する。 5. 保育所における保育計画・指導計画を理解する 6. 保育士としての職業倫理を学ぶ 	
使用テキスト・参考文献	—
評価の基準・方法	規程時間数の実習 実習日誌の提出による評価

科目名	保育実習 I（施設）
授業の種類	実習
授業時間数	98 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>施設の生活に参加して、児童への理解を深める。施設の機能とそこでの保育士の役割について理解し、施設全体の役割を把握する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の役割、機能について概要を理解する 2. 施設の 1 日の流れを理解する。さらに、実際の保育実践に参加し、児童と行動を共にすることにより、生活状況を把握する 3. 児童の観察や児童とのかかわりを通して、児童の発達を理解する 4. 遊びなど生活の一部を担当し、保育技術を習得する。 5. 施設における保育計画・指導計画を理解する 6. 保育士としての職業倫理を学ぶ 	
使用テキスト・参考文献	—
評価の基準・方法	規程時間数の実習 実習日誌の提出による評価

科目名	保育実習Ⅱ（保育所）
授業の種類	実習
授業時間数	94 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>保育活動を実践しながら、保育士として必要な態度・能力・技術を習得する。また、家庭と地域の生活実態に触れて、乳幼児と家庭および地域との関係に対する理解力、判断力を養うと共に、子育て支援に必要とされる能力を養う。さらに、将来あるべき保育士の姿を絶えず自らに問いかけながら、子ども・児童観を養う。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実際の保育活動に参加し、保育技術を習得する 2. 乳幼児の個人差について理解する。特に発達の遅れや生活環境に伴う乳幼児のニーズを理解し、その対応について学ぶ 3. 学生自ら指導計画を立案し、それを基に実践する 4. 地域社会に対する理解を深め、地域社会との連携の方法について具体的に学ぶ 5. 保育士としての職業倫理を具体的に学び、身に付ける 6. 保育士に求められる態度・能力・技術に照らし合わせて、自分自身の課題を明確にする 	
使用テキスト・参考文献	—
評価の基準・方法	規程時間数の実習 実習日誌の提出による評価

科目名	幼稚園教育実習 I
授業の種類	実習
授業時間数	94 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>幼稚園で行う教育実習であり、実際に幼稚園の現場での保育を観察・経験する。現場での実践力を高める実習となる。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションを通し、実習園の概要や園目標を知る 2. 実習課題をもって日々の実習に臨む 3. 子どもとのかかわり方の基礎を学ぶ 4. 一人ひとりの子どもの育ちの違いを通して、子どもを理解する 5. 教諭としての職務内容や役割、指導技術などを観察し理解する 6. 保育の事前準備、遊具や玩具、保育室の装飾など、物的環境のあり方を学ぶ 7. 保育に参加し、部分的に実際の指導を経験する 8. 学級運営に必要な事務内容を知る 9. 学んだことを記録に残し、「幼稚園教育実習Ⅱ」に活かす 	
使用テキスト・参考文献	—
評価の基準・方法	規程時間数の実習 実習日誌の提出による評価

科目名	幼稚園教育実習Ⅱ
授業の種類	実習
授業時間数	94 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>幼稚園で行う教育実習であり、実際に幼稚園の現場での保育を観察・経験する。現場での実践力を高める実習となる。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目標（テーマ）をもって実習に臨み、子どもと積極的にかかわる 2. 一人ひとりの子どもの育ちの違いを見つめ、子どもの理解を深める 3. 教諭としての職務内容や役割、職員間のチームワークを体験から学ぶ 4. 責任実習において、指導案の立案、保育展開のための事前準備、実際の指導を経験し、事後の課題を見いだす 5. 保育内容や季節によって変化する、遊具や玩具、保育室の装飾など、物的環境のあり方を学ぶ 6. 実習園の地域的環境に目を向け、地域社会との子育ての連携を学ぶ 7. 家庭との連絡の取り方、学級事務の処理方法を知る 8. 園行事等に役割を持ち、積極的に体験する 9. 学んだことを記録に残し、これからの研究に活かす 	
使用テキスト・参考文献	—
評価の基準・方法	規程時間数の実習 実習日誌の提出による評価

科目名	保育実習事後指導 I
授業の種類	講義・演習
授業時間数	14 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>保育実習 I での総括・評価を行い、それをふまえて保育実習 II に向けた学修目標・課題を明確化する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習 I (保育所・施設実習) の目的、意義を再確認する 2. 自己の実習 (保育所実習) を振り返る 3. 部分実習・責任実習の指導案の実践について振り返る 4. 施設概要をふまえ、施設実習の目的、意義を再確認する 5. 自己の実習 (施設実習) を振り返る 6. 自己の保育技術について反省・考察する 7. 上記の内容について、発表できるように準備をする 8. 保育現場に関する視聴覚教材を参考に、保育環境、子どもの人間関係、保育者の援助について学ぶ 9. 子どもの発達に応じた保育のあり方を理解する (0~2 歳児) 10. 子どもの発達に応じた保育のあり方を理解する (3~5 歳児) 11. 保育技術の修得 12. 保育士の専門性について考察する 1 (意味・内容など) 13. 保育士の専門性について考察する 2 (これからの保育者とは) 14. 保育士を取り巻く今後の課題について 15. 実習現場から得られたことについてのまとめ 	
使用テキスト・参考文献	保育実習 I の実習日誌
評価の基準・方法	授業内での発表により

科目名	保育実習事後指導Ⅱ
授業の種類	講義・演習
授業時間数	9 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>保育実習Ⅱでの総括・評価を行い、それをふまえて保育実習Ⅱに向けた学修目標・課題を明確化する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習による総合的な学び1（子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解） 2. 保育実習による総合的な学び2（子どもの保育と保護者支援） 3. 保育実習による総合的な学び3（保育所施設の特徴） 4. 保育実践力の育成1（子どもの状態に応じた適切なかかわり） 5. 保育実践力の育成2（保育の表現技術の応用） 6. 保育実践力の育成3（特別な配慮を必要とする子どもへの保育の実際） 7. 実習施設における指導1（保育士が果たす役割の理解） 8. 実習施設における指導2（利用する子どもの特徴の理解とかかわりの検討） 9. 保育実習からの学びと課題1（子どもの姿・保育者の仕事） 10. 実習施設における指導2（基本的側面・事実の記録・考察の深まりから） 11. 実習施設における指導3（子育て支援・延長保育・一時保育等） 12. 事後指導における実習の総括と評価1（実習の総括と自己評価） 13. 事後指導における実習の総括と評価2（生活に関する技術について） 14. 事後指導における実習の総括と評価3（グループディスカッション） 15. 事後指導における実習の総括と評価4（グループディスカッションによる課題の整理および発表） 	
使用テキスト・参考文献	保育実習Ⅱの実習日誌
評価の基準・方法	授業内での発表により

科目名	幼稚園教育実習指導Ⅱ
授業の種類	講義・演習
授業時間数	18 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>幼稚園教育実習の反省や評価をもとに、これまで修得した専門知識を振り返り、幼児の生活や発達の理解、幼児の発達を促す指導のあり方についての学修を演習を通して一層深めていく。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育実習の感想および課題等をまとめる 2. 実習体験を振り返りながら、「実習の手引き」を参考に、「実習について」「実習生として」「実習に役立つ知識・危機管理」など、幼稚園実習の基礎・基本について要点をまとめる 3. 幼小の連携について、その考え方や検討すべき課題、具体的な連携の例について調べる 4. 幼児教育をめぐる問題について調べ、幼児の生活や発達に及ぼす影響、また幼稚園において取り組むべき課題などについて整理する 5. 「環境を通して行う教育」の意義について復習し、理解を深める 6. 3歳児～5歳児について、年齢別の生活や発達の特徴、指導のポイントなどについてまとめる 7. 実習体験を振り返り、部分実習指導案の作成に関わる自身の課題を明らかにする 8. 幼稚園の一日を想像しながら、実習生の役割や留意点等を調べる 9. 模擬保育指導案の作成に向けて、対象年齢、幼児の姿、季節や時期、幼稚園の規模、紙芝居・歌・手遊びなどの活動、食事の仕方、登園時刻や降園時刻、一日の時間の区切り方などを検討する 10. 模擬保育指導案の作成と教材研究1（教材の作成や準備など） 11. 模擬保育指導案の作成と教材研究2（試作や実践練習） 12. 模擬保育指導案について検討会 13. 模擬保育指導案の改善と教材研究 14. 指導の改善充実に生きる記録の取り方や反省・評価の仕方について調べる 15. 保育者としての専門性をより向上させるために、今後力を入れて取り組みたいことをまとめる 	
使用テキスト・参考文献	東京福祉大学「教育実習（初等）の手引き」
評価の基準・方法	授業後の確認試験および提出物により

科目名	保育表現技術演習
授業の種類	講義・演習
授業時間数	34 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>保育における言語的な表現技術を学修し、保育に関する基礎理論、保育内容、保育技能等、学修した知識・技能をこの保育表現技術の中で活かし、それらの体験を通して、保育における表現技術をスキルアップし、総合的に深めていくことを目的としている。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスの確認、授業展開および期末課題の確認 2. 保育の質と組織活性化について 3. 保育教材の意義と保育活動における教材の必要性について 4. 保育教材の三機能について（教育性・興味性・児童性） 5. 保育教材の支援と援助について 6. 保育教材の必要性について 7. 保育教材の作成企画について 8. 保育教材の作成1（紙芝居・エプロンシアターなどの作成） 9. 保育教材の作成2（絵本・手遊びなどの作成） 10. 保育教材の実践 11. 保育教材の実践の反省と課題1（課題について整理しまとめる） 12. 保育教材の実践の反省と課題2（効果についてまとめる） 13. 保育教材の実践の反省と課題2（まとめ） 14. 幼児の発達段階に即した保育教材とは何か、整理しまとめる 15. 保育者の表現力を育てるにはどうしたらよいか 	
使用テキスト・参考文献	駒井美智子 他「すぐに使える笑顔いっぱい遊びのレシピ」 大学図書出版
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	保育・教職実践演習
授業の種類	講義・演習
授業時間数	52 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>これまで修得した保育の専門知識の振り返りによって保育の専門的基礎力の定着を図ること、および専門的知識技能の実践への応用、課題解決能力を高めることが、この科目の目標である。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実践の特殊性と保育者に必要な専門的スキルとはどのようなことかをまとめる 2. 子どもの最善の利益を考慮した保育について 3. 幼児教育者に求められているもの1（日本の子育て環境の問題点について） 4. 幼児教育者に求められているもの2（日本の保育制度の問題点について） 5. 幼児教育者に求められているもの3（保育環境の問題点を補うための方策） 6. 保育環境の改善1（子どもの安心と安全のための環境） 7. 保育環境の改善2（子どもの活動発展のための環境） 8. 保育環境の改善3（地域との連携協力） 9. 総合的な実践の結びつき1（保育者としての基本的なふるまい方） 10. 総合的な実践の結びつき2（子どもの内面理解と受容） 11. 総合的な実践の結びつき3（子どもの活動発展のためのかかわり） 12. 総合的な実践の結びつき4（保護者とのかかわり） 13. 総合的な実践の結びつき5（保育教材の創意工夫） 14. 保育者としての向上1（常に他に対しての開放的・建設的な態度、向上心を形成する） 15. 保育者としての向上2（保育者としての自己課題、長所短所の整理などを通して、保育者としての自覚を促す） 	
使用テキスト・参考文献	横山文樹、駒井美智子 編著「保育・教職実践演習」大学図書出版 社会福祉法人日本保育協会「保育所保育指針」 文部科学省「幼稚園教育要領 解説」フレーベル館 福本俊監修、駒井美智子 他著「幼稚園教諭・保育士のための実習ガイドブック」大学図書出版
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	専門演習 I
授業の種類	講義・演習
授業時間数	14 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>保育・子育て支援について具体的な事例、課題を取り上げながら演習形式にて、調査・分析、問題点整理の方法を学ぶ。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会と子どもの育ち 2. 幼児期の発達と遊び 3. レポート対策1 「子どもの心を知ることについて述べよ」 4. レポート対策2 「子どもの心を理解するための臨床心理学的な視点と方法について述べよ」 5. レポート対策3 「子どもの心を知る方法としての観察、また、実践改善における記録の重要性について述べよ」 6. レポート対策4 「子どもの心を理解するための基本的な考え『カウンセリングマインド』について述べよ」 7. レポート対策5 「保育におけるカウンセリングマインドの重要性について述べよ」 8. レポート対策6 （考察のまとめ） 9. 実践編1 （保育者による保育の組立について） 10. 実践編2 （保育者による子どもへの対応について） 11. 実践編3 （保育者による保護者への対応および保護者からの質問について） 12. 実践編4 （実習中の指導・援助について） 13. 実践編5 （実習生・初任者が抱える子どもへの対応のわからなさについて） 14. 実践編6 （実習生・初任者における園や保育者とのかかわりについて） 15. 総まとめ（保育における保育臨床相談について） 	
使用テキスト・参考文献	小田豊 他「保育臨床相談」北大路書房
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	専門演習Ⅱ
授業の種類	講義・演習
授業時間数	14 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	國府田友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>保育実習Ⅰを振り返りながら保育実習Ⅱに備えるとともに、子育て支援のあり方の幅広い可能性に重点を置いて「子どもの専門家」としての職業意識を養う。保育・子育て支援の具体的な事例、課題について、グループで課題を設定し、学修を行うことを通じて、問題解決能力を養う。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設の理解 2. 子どもを観察する視点と方法1（年齢別の子どもの発達段階を知る） 3. 子どもを観察する視点と方法2（記録をすることの重要性） 4. 保育実習時における子どもへの対応1（子どもを受け入れ、子どもの気持ちを知る） 5. 保育実習時における子どもへの対応2（葛藤場面での対応を考察する） 6. 保育実習時における保護者への対応1（保護者との出会い、保護者を知ること） 7. 保育実習時における保護者への対応2（実習生としてのふさわしい態度と市勢） 8. 子育て支援について1（家庭、地域、子ども社会の変化と子育て支援の重要性） 9. 子育て支援について2（支援の基本姿勢、具体的な方法） 10. 実習中に学ぶ保育現場での支援1（園の基本的な一日の流れ） 11. 実習中に学ぶ保育現場での支援2（保育をする上での指導計画を作成する意義） 12. 保育環境 13. 児童文化教材 14. 保育者の資質向上のために 15. 保育自習で学ぶことは… 	
使用テキスト・参考文献	関口はつ江 他「保育実習ハンドブック」大学図書出版
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	ピアノ演習Ⅲ
授業の種類	実習
授業時間数	147 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	増山桃萌 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※通信制高校にてピアノ指導経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>幼稚園の現場をふまえたピアノの練習を行う。また、個人ごとに課題曲を設定し、卒業発表会で披露できるよう練習する。</p> <p>《ピアノ実習》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バイエル 35 番・55 番 2. バイエル 37 番・59 番 3. バイエル 39 番・66 番 4. バイエル 46 番・73 番 5. バイエル 49 番・77 番 6. ピアノ個人レッスン 7. 簡単な伴奏での弾き歌い 8. コードネームによる和音伴奏での弾き歌い 	
使用テキスト・参考文献	楽譜：「標準バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
評価の基準・方法	実技試験

3. 経理ビジネス学科

科目名	工業簿記
授業の種類	講義
授業時間数	80 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	安達裕一 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※税理士事務所で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>経営管理に役立つ知識として、企業から最も求められる資格の一つである日本商工会議所簿記検定の2級は、商業簿記と工業簿記に分かれる。本科目は、そのうち工業簿記を学修する。</p> <p>原価計算を含む高度な工業簿記を修得し、財務諸表の数字から経営内容を把握できるなど、企業活動や会計実務を踏まえ適切な処理や分析を行うために求められる内容を取得する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 工業簿記の基礎 2. 工業簿記の勘定連絡 3. 材料費の計算 4. 労務費の計算 5. 経費とは 6. 個別原価計算1（勘定連絡図） 7. 個別原価計算2（製造間接費） 8. 部門別個別原価計算 9. 総合原価計算1（勘定連絡図） 10. 総合原価計算2（工程別） 11. 総合原価計算3（組別） 12. 財務諸表 13. 標準原価計算 14. 直接原価計算 15. 本社工場会計 	
使用テキスト・参考文献	TAC(株) 編著「合格テキスト 日商簿記2級工業簿記」 TAC(株) 編著「合格トレーニング 日商簿記2級工業簿記」 ネットスクール(株) 編著「ズバリ2級的中！完全予想模試」 ネットスクール(株) ネットスクール(株) 編著「日商簿記2級 未来のための過去問題集」 ネットスクール(株)
評価の基準・方法	試験

科目名	労務管理
授業の種類	講義
授業時間数	80 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	佐藤望 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※行政書士事務所で勤務
<p>《科目概要》</p> <p>労働基準法に基づく法律知識を基本として、労務管理業務を行う者が、現実の職場に起きた問題を正しく判断し、法律知識と人間性に基づく解決策を見出すために学習することを目的とする。人の採用・退職から就業規則の作成・変更及び労働基準監督署への届出、労働災害の対策実務、解雇の制限と決定の手続き等を行える能力を習得する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事業を始めるとき 2. 労働者を募集・採用するとき 3. 就業規則 4. 労働時間・休憩・休日・休暇 5. 賃金 6. 安全衛生に関する手続 7. 労働災害が発生したときは 8. 解雇するとき、退職するとき 9. 未成年者を雇うとき 10. 女性労働者を雇うとき 11. パートタイマーを雇うとき 12. 契約社員を雇うとき 13. 派遣労働者を派遣するとき、受け入れるとき 14. その他の働く人の特性に応じたルール 15. 労使間でトラブルが発生したとき 	
使用テキスト・参考文献	公益社団法人全国労働基準関係団体連合会 編著・発行「知らなきゃトラブる！労働基準関係法の要点」
評価の基準・方法	試験

4. 医療秘書学科

科目名	医療事務C P I
授業の種類	実習
授業時間数	40 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	木立幸子 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※内科クリニックで医療事務の勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>医療事務 I を基に、実際にパソコンを使い電子カルテを作成する。ソフトの入力画面に表示される用語等が理解できるように学習を進める。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 初診料と再診料 2. 医学管理等 3. 在宅医療とは 4. 処置 5. 手術 6. 麻酔 7. 検査 8. 病理診断 9. リハビリテーション 10. 精神科専門療法 11. 放射線治療 12. 入院料等 13. 投薬（処方箋） 14. 注射 15. 画像診断 	
使用テキスト・参考文献	ニチイ学館 編著・発行「医科テキスト3」 ニチイ学館 編著・発行「医科スタディブック」 医学通信社 編著・発行「診療点数早見表」 ケアアンドコミュニケーション 編著・発行「コンピュータ 入力練習用 カルテ例題集」
評価の基準・方法	試験

科目名	医療事務 I
授業の種類	講義
授業時間数	480 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	木立幸子 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※内科クリニックで医療事務の勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>医療事務者として即戦力になるような人材を育成するため、医療費の計算・医療保険制度についての基礎を学ぶ。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療保険制度の基礎知識（保険証などの帳票類の見方など） 2. 患者接遇マナーや職場でのコミュニケーション 3. 医療費の算定方法 1（診療報酬点数とは） 4. 医療費の算定方法 2（初診料・再診料、投薬、検査など） 5. 医療費の算定方法 3（診療行為ごとの点数計算） 6. レセプトの記載方法 7. レセプトの点検例題 8. 問題答案練習 1（医療保険制度など） 9. 問題答案練習 2（点数算定など） 10. 問題答案練習 3（窓口対応など） 11. 試験対策 	
使用テキスト・参考文献	ニチイ学館 編著・発行「医科テキスト 1」 ニチイ学館 編著・発行「医科テキスト 2」 ニチイ学館 編著・発行「医科テキスト 3」 ニチイ学館 編著・発行「医科テキスト 4」 ニチイ学館 編著・発行「医科スタディブック」 ニチイ学館 編著・発行「医科ハンドブック」 ニチイ学館 編著・発行「医科しっかりわかる基礎ドリル」 医学通信社 編著・発行「診療点数早見表」 医学通信社 編著・発行「受験対策と予想問題集」
評価の基準・方法	試験

科目名	医療事務Ⅱ/歯科医療事務
授業の種類	講義
授業時間数	520 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	木立幸子 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※内科クリニックで医療事務の勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>医療事務者として即戦力になるような人材を育成するため、医療費の計算・医療保険制度についての応用までを学ぶ。加えて、歯科の分野や、ドクターズクラークとして医師をサポートする際に求められる専門的な知識やスキルを習得する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療事務Ⅰの復習 2. 歯科の基礎知識 3. 歯科のレセプト・会計関連 4. 歯科の受付関連 5. 医療事務作業補助について 6. 医学一般 7. 薬理一般 8. 個人情報保護 9. ヒューマンスキル 10. 試験対策 	
使用テキスト・参考文献	<p>ニチイ学館 編著・発行「歯科テキスト3」・「歯科テキスト4」・「歯科スタディブック」・「歯科ハンドブック」</p> <p>ニチイ学館 編著・発行「歯科しっかりわかる基礎ドリル」</p> <p>ニチイ学館 編著・発行「メディカルDクラークテキスト1」</p> <p>ニチイ学館 編著・発行「メディカルDクラークテキスト2」</p> <p>ニチイ学館 編著・発行「メディカルDクラークテキスト3」</p> <p>ニチイ学館 編著・発行「メディカルDクラークテキスト4」</p> <p>ニチイ学館 編著・発行「調剤テキスト 調剤報酬編」</p> <p>ニチイ学館 編著・発行「調剤保険薬早見表」</p> <p>ニチイ学館 編著・発行「調剤 myBestNote」</p> <p>医学通信社 編著・発行「最新医事関連法の完全知識」</p> <p>医学通信社 編著・発行「診療点数早見表」</p> <p>医学通信社 編著・発行「受験対策と予想問題集」</p>
評価の基準・方法	試験

科目名	医療事務C P II
授業の種類	実習
授業時間数	120 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	木立幸子 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※内科クリニックで医療事務の勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>医療事務IIを基に、実際にパソコンを使い電子カルテを作成する。様々なタイプの架空の患者を実際に入力し、各種帳票を作成する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外来カルテ1 (診療所編 日数・日付一致) 2. 外来カルテ2 (診療所編 診療月一致) 3. 外来カルテ3 (病院編 診療月一致) 4. 外来カルテ4 (病院編 診療科別に診療月一致) 5. 外来カルテ5 (診療所編 診療科別に診療月一致) 6. 外来カルテ6 (病院編 診療科別に診療月一致) 7. 外来カルテ7 (病院編) 8. 外来カルテ8 (病院編 後期高齢者) 9. 外来カルテ9 (診療所編 後期高齢者) 10. 入院カルテ10 (診療所編) 11. 入院カルテ11 (病院編) 12. 伝票からの入力 	
使用テキスト・参考文献	ニチイ学館 編著「医科テキスト3」ニチイ学館 ニチイ学館 編著「医科スタディブック」ニチイ学館 医学通信社 編著「診療点数早見表」医学通信社 ケアアンドコミュニケーション 編著「コンピュータ入力練習用 カルテ例題集」ケアアンドコミュニケーション
評価の基準・方法	試験